

第2次稲敷市総合計画審議会（第4回） 議事録



日時：平成28年10月28日（金）午後3時から

場所：市庁舎 4階 議会全員協議会室

委員：横須賀徹会長

伊藤均委員、根本光治委員、若松宏幸委員、篠田純一委員、柳町政広委員、姥貝守委員、野村由紀子委員、青木啓泰委員、篠原秀男委員、岩崎昭一委員、小幡保委員、村塚好一、高須行雄委員、諸岡明美委員、高木正志委員、埴崎崇史委員、高須晃次郎委員、田村千鶴委員、清野敏秀委員（欠席：浅野信行副会長、田丸治委員、沼崎夕子委員）

内田副市長

事務局：政策調整部長、政策企画課課長補佐、総務部長、市民生活部長、保健福祉部長、産業建設部長、上下水道部長、教育部長、会計管理者政策企画課課長補佐

コンサルタント：3名

■議事

- (1) 基本構想（案）について
- (2) 基本計画（案）について
- (3) 重点プロジェクトについて

■配布資料

- ・第2次稲敷市総合計画審議会 第4回会議次第
- ・資料 1 第2次稲敷市総合計画策定方針及び基本構想（案）
- ・資料 2 第2次稲敷市総合計画基本計画（案）
- ・資料 3 重点プロジェクト（案）
- ・参考資料1 基本計画の見方
- ・参考資料2 第2次稲敷市総合計画策定スケジュール
- ・参考資料3 第2次稲敷市総合計画審議会（第3回）議事録
- ・参考資料4 第2次稲敷市総合計画審議会（第3回）指摘内容とその対応について（当日配布）

1. 開会

事務局：定刻より若干時間が早いですが、会議を始めさせていただきたいと思います。本日は大変お忙しい中、お越しいただきまして誠にありがとうございます。ただいまより第2次稲敷市総合計画審議会第4回審議会を始めさせていただきます。開会にあたりまして、横須賀会長からご挨拶をお願い申し上げます。

2. 会長あいさつ

横須賀会長：横須賀でございます。急に寒くなりまして、私も月曜日の工作中、頭が痛くなり夕方の仕事をキャンセルして、薬屋に寄り漢方薬を購入し飲んだところ、家に着いた時にはスッキリしていたのですが、我慢して冬の布団を出さずに毛布で過ごしていたのですが、もう無理だなということで厚い布団に変えました。それとこの頃、気象が異常で野菜が高騰しているということで、その話を色々なところで聞いていたのですが、今日の雨の場合少しはいいのかなと思います。雨は嫌いではないというか、季節がちゃんとそのままちゃんと来てくれれば良いなと思っております。今日のこの審議会は、前回のご意見をもとに、修正した内容であり、それと新しく、全体の計画がわかる部分をおおた作られたということで、中身について皆さんにご議論頂ければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

事務局：ありがとうございました。本日の審議会の出席者は20名でございます。また、公務により浅野信行副会長、田丸治委員、沼崎夕子委員は欠席をいたしておりますのでご報告させていただきます。そして、青木啓泰委員につきましては、若干遅れての出席となりますのでどうぞよろしくお願いたします。このあと議事に入り、議事の中で各委員から色々ご意見をいただくようになるかと思いますが、意見をいただく際には目の前のマイクを口元の方に寄せて頂いて、ご発言いただくようお願いたします。既にマイクの方は電源が入っている状態ですので、よろしくお願いたします。それでは、早速議事に入らせていただきたく思いますが、議事の進行は横須賀会長よりお願したいと思っております。

3. 各部長あいさつ

内田副市長：どうもお世話様です。今回基本計画の案を出してございまして、色々多岐に渡る内容となりますので庁内で策定委員会というものを作っており、私副市長の内田が策定委員長をしております。委員は部長となるのですが、それぞれ部長が出席をしておりますので、部長の方から自己紹介いたしますのでどうぞよろしくお願いたします。

総務部長：大変お疲れ様でございます。総務部長の油原と申します。お願いたします。

市民生活部長：市民生活部長の糸賀でございます。よろしくお願いたします。

保健福祉部長：保健福祉部の川崎と申します。どうぞお願いたします。

産業建設部長：産業建設部の宮本と申します。どうぞよろしくお願いたします。

上下水道部長：本日は大変ご苦労様でございます。上下水道部長の諸岡です。どうぞよろしくお願いたします。

教育部長：皆さんこんにちは。教育部長の一鍬田と申します。よろしくお願いたします。

4. 議事

(1) 基本構想(案)について

横須賀会長：それでは、内容に入っていきたいと思っております。事務局にお願して、事前に資料をとということで、今回内容的に厚いものですが、なかなか読みこなすのが大変です

が、それぞれご関心ある部分をご覧になってご出席頂いていると思いますので、そういう前提で進めさせていただきます。それではまず初めに、「(1) 基本構想(案)について」、事務局の方から説明いただきたいと思います。

<資料確認・事務局より説明>

横須賀会長：内容的には基本構想(案)の12、13ページを中心にした話と、土地利用構想の二つを中心に説明をいただきましたが、前回ご意見が出たのもこの二カ所でした。出来れば今日改めて皆様にご意見を頂いて、内容的に高めていきたいと思っております。まずは、基本理念、将来像の部分についてご意見があればお願いします。前回ご指摘を受けた形で修正したということです。ではご意見がなければ、あとでまた伺うと思いますが、土地利用構想のほうではいかがでしょうか。それでは、まとめて、また最後にご意見をいただく形を取らせていただきたいと思います。続いて進みまして、資料2「(2) 基本計画(案)について」の説明をお願いします。

(2) 基本計画(案)について

<事務局より説明>

横須賀会長：それぞれ興味のある部分をご覧になってきたという前提で進めさせていただきます。まず、この説明いただいた基本計画について、このような構成でいいのかという点でご意見があれば、最初にいただきたいと思いますのですが、どうでしょうか。それでは、構成はこのような形で良いということで進めさせていただきます。続いて、少し厚い資料2、1～24ページ「第1章 子育て・学び」の部分で何かご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。別に文句をつけろとか褒めろと言うことではなく、内容に賛同するもよし、おおざっぱにご意見いただければと思います。本当は内容を一つ一つ説明して、やっていくのが一番良いと思うのですが、そうすると延々と一日やってないと終わりませんので、とりあえず出てきた感想で「これだけは守ってほしい」等という意見がございましたら。それでは、考えておいていただいて、とりあえずは一度進めるということで、25～42ページ「第2章 福祉・保健」の分野についてはいかがでしょうか。それでは、この部分も後ほどご意見があれば伺うという形で続けさせていただきます。次は、43～62ページ「第3章 生活安全・環境保全」の部分はいかがでしょうか。続いて進めさせていただきます。次に、63～86ページ「第4章 都市基盤・産業振興」についてはいかがでしょうか。

篠原委員：70ページの取組内容、「■道路ネットワーク」の「①幹線道路の整備」の中で、茨城県単独の中で稲敷市なので、千葉県との連携や首都圏の中での茨城県という位置づけがあまりないのですが、茨城県を見ますと千葉・茨城道路と言うのがあります。この部分は稲敷市の西側の地区のあたりを貫いており、美浦あたりを出て霞ヶ

浦を渡ってというものです。

このような道路の策定もあるかと思うので、そのあたりの千葉県との連携での道路ネットワークについても記載があったら良いと思います。

横須賀会長：ありがとうございます。それではここは、具体的な計画の実施や期間も含めて、入れるか入れないか、内容をご検討していただこうと思います。あと審議会は二回ありますね。次の会議までには整理をしてまとめるのはできるでしょうか。

高山部長：今お話しいただいたのは、千葉～茨城間の霞ヶ浦二橋の建設促進構想だと思えます。霞ヶ浦二橋建設促進期成同盟で関係市町村から国へ要望をしており、実態としては進んでいません。先日茨城県庁に行ってきましたが、全体事業費で1千億円以上かかるという壮大な構想であるということから、着実に進めてもらう要望をしている状況でございます。なおかつ、千葉県側の方も構想の段階であると聞いておりますが、ただ、30年以上もこのような活動をしているという話も聞いており、そういったことを踏まえ、計画の方は市の方に載せるかどうかも含めて、県と確認を取る予定であります。

篠原委員：千葉の境大橋がその一つらしいのですが、既に完成しているんですよ。アクセスの関係で、最終的には荒唐無稽というか1千億円以上かかるという壮大な構想ということになっている。一応、文章に入れておいてはどうでしょうか。

横須賀会長：どちらにしても、計画そのものは13年間の計画になっております。基本計画は具体的な目標の設定の部分は5年間ですが、計画は13年分の内容が前提です。その辺りの兼ね合いも検討しながら事務局の方で取り込み方の検討をいただきたいと思います。そのほかいかがでしょうか。

それでは、最後の「第5章 市民参画・行財政」に移りたいと思います。87ページ以降です。こちらでご意見ございますか。それでは全体を、あとでまとめて振り返りながらご発言していただこうと思います。とりあえず、ここで「(2)基本計画(案)について」を閉じまして、第3の課題である「重点プロジェクト」について進めていきたいと思えます。事務局より説明をお願いいたします。

(3) 重点プロジェクトについて

<事務局より説明>

横須賀会長：今、事務局の方より説明をいただきました。本日はご意見が少ないので、私の方から少し意見をさせていただきますので、質問が続けばいいなと思えます。重点プロジェクトは、一般的に総合計画をやる中でそのまちのアイデンティティ、最も重要な部分を守って発展させるためにあるものというのが一つです。またもう一つ、総合計画が13年とある程度長期でやったとしても計画期間内で終わる話はなかなかない。計画をまたぎ、次の世代、もしくはその次の世代までかかったとしても行っていく、長いスタンスで重要であると出すのが二つ目です。そしてもう一つは、この期間内、特に基本計画に位置付けてこの5年間のうちに何がなんでもやるぞとするもの。だいたいこの三つの考え方があつた。その辺のことを考えますと、この「子

どもたちの笑顔あふれるまち・働きやすく住みやすいまち・暮らして安心安全なまち」は、3つの内容を含んでいます。出来れば次回までに、新しい提案として、それぞれの重点プロジェクト内に、レアケースのような先進的なものが取組内容として一つでも入っていると良いと思いました。この辺の事業イメージを考えて次回お話しいただきたい。いっぱいはいらないと思いますので、一つのプロジェクトに一つ。とはいえ、一つのプロジェクトはかなり幅広い内容ですよ。子どもといっても0歳以前から大きいところまである。例えば0歳だけや1、2歳だけなのか絞っても良いと思います。何か、キラッと光る施策をご検討いただきたい。5年のうちには形になるぞというものをお話しいただくと、「重点プロジェクト」の意味が皆さんにも伝わるのかなと思う。それでは、司会が初めからお願いを申し上げて申し訳ありませんが、何かご意見ございましたらお願いします。

根本委員：質問というよりは感想ですが、稲敷市がこれをつくるにあたり、どういうスタンスで臨まれているのかなと非常に疑問に思いました。やるしかないからやっているように感じられる。先ほど先生がおっしゃられた通り、ポイントが弱い。稲敷市はこれだけ人口が減少している。それを何が何でもして打開するという視点が欠けている。例えばですが、個人的な案として、稲敷市には1400人弱の消防団があり、地域コミュニティの基盤として活躍しているので、力を借りて、稲敷市でこういったことを仕掛けていくなど。現状では何かぼやっとしているので、具体性があるものを作っていっていただきたい。

そしてもう一つ、先ほどのスタンスの話だが、例えばこれをやってどうなるのかというのが見えない。「子ども」というキーワードがトップにくるということで、これは本当にありがたいことなのですが、例えば、これに臨むにあたり、作る側の市役所のスタンスは何か。実際、ここにおられる部長さんたちは子どもたちを現場で見ているのだろうか。多忙であり、なかなか難しいとは思いますが、例えば運動会に来てみるなど、自分たちで積極的にそういうものに参加しながら作りこんでいないから、こういう形だけのものになっていくのかなと思う。それで、コミュニティと言いつつも、どのくらいコミュニティを理解しているのか。どの現場に行っておっしゃられているのかということに非常に疑問を感じる。それが必死さや泥臭さ（稲敷市らしさ、地域らしさ）だったりするのではないかと。それが出てこないからポイントが掴めていないものになる。今から行けばいいと言っているわけではなく、例えば地域を歩かれている方（活動している方）の話をもう一度各部長が聞けば良い。重点プロジェクトであれば、そこに関わるすべての方がきちんと理解するということが一番重要だと思います。そうすれば形となってくると思います。時間は限られているでしょうが、ぜひ次回までにポイントとか、光るものを一つ取り入れていただきたいと思います。よろしくお願いします。

横須賀会長：ありがとうございます。子どものことは、どこの市町村も必死な感じがします。水戸から東京への往復の際にバスを利用しますが、東京駅に入ってくるバスのラッピングなどもここ最近ガラッと変わった感じがしますね。以前はご当地キャラクターを載せて「〇〇が美味しいよ」だったり、「〇〇を観光しよう」というものだったの

が、最近では「子育てするなら〇〇市へ」とかダイレクトに観光客、乗降客にアピールしている。近くでいうと行方市も同様のバスラッピングをしており、観光客を呼ぶのではなく、移住してほしいというダイレクトなアピールが目立つ。「まち・ひと・しごと創生」をやってから、どこも子どもを取り入れようと必死。そこまですらなくても、「ここだったらあるよ」ということを具体的にアピールしていかないとだめなのかなと思います。そのうち情報が公開されますので今回お話しますが、他市の例で、現在桜川市の総合計画にも関わっているのでそこで議論になった話ですが、「桜川」という地名について、この名前はわりとレアなケースですよね。真壁郡と西茨城郡が合併して出来た市で、桜川が縦断しているので付けられた名前なのですが、外から見たらありきたりな名前です、それこそ日本中にある。桜と言うと、日本人はソメイヨシノをイメージするが、桜川の桜はヤマザクラで平安時代からある桜。西の吉野、東の桜川とも言えるぐらい本数も多い。その辺を桜川市はアイデンティティとして重点プロジェクトの中で全面的に出している。「桜」をポイントとして考えられたプロジェクトの一つが、小学校入学時に子どもひとりにつき一本苗木を貰え、学校で自分の木を植え、育てていくというもの。自分の木を持てるというのは自分のまちのアイデンティティをつけていくということで、こういったものが、ひとつの物語としての重点プロジェクトだと思う。ここまで中身を作らなくても良いとは思いますが、ここ稲敷はどう「子育てしやすく・働きやすく住みやすい・安心安全なまち」を作っていくのか、これやこれとこれを行います、とあっさり説明できるようなものになれば良いと思う。

また、今まで「安心安全」というのは都市基盤の中に入っていたが、ここ3年前ぐらいから作っている総合計画の特徴としては、そこから「安心安全」を抜き出している。これは、人間はダメージを受けると考え方が変わってくるものです。2011年の東日本大震災から2015年には常総市の水害がありましたが、あまり変化が見られなかったので常総市の水害の後、県内44市町村で調査をいたしました。結果としては、学生が卒論で発表したいとのことでまだ発表されておませんが、状況を見ますと、先の震災で震度6以上を経験したところと、震度4～5のところでは、明らかにその後の対策整備や考え方が違うものでした。それと、津波の被害を受けた沿岸部と、内陸部も比較すると違ってきます。人間は実際に体感して初めて、次の備えができます。みんな感じたからこそほとんどの市町村で、こうして「安心安全」が抜き出るようになりました。ただ、今回あげた重点プロジェクトは言わばどこでも扱っているような基本的な内容なので、今の総合計画に「もう一つ何か」特徴を加えることができれば良いと思います。現実にお金がかかるかどうかは別として、5年の間でこの体制をつくるぞ、というのは大切。最後に今後の話もあると思いますが、審議会は、あと二回。今回が実質的に修正の山場。次回の審議会はその修正の内容確認とその上での意見を追加という形で、最後は出来たものを行政側にお返しし答申するという形まで持っていくわけですから、出来れば皆さん遠慮せずに意見出しをしていただきたいと思います。来週中には、何かこういう形で意見があれば出してくれ、というようなものをそれぞれ委員さんのところに、返信できるような

ものを用意し今日中にお送りして下さい。まだ意見が言える機会がある議員の方は別として、市民の方はなるべく言いたいことを出していただければと思う。事務局から、ペーパーを送り、それを返すような形で意見をもらって下さい。よろしくお願ひします。それでは、これで重点プロジェクトの部分を終わりにさせていただきますが、本日、全体を通して何かあればご意見を頂ければと思います。

篠田委員：現在あげられている3つも勿論そうですが、人口減少対策がやはり一番の重点プロジェクトだと思います。あとは財源の確保など、もっと現実的で危機感があるものを目に見える形にしてほしい。今まで色々な方がおっしゃられていましたが、例えば産官学の連携や農産物のブランド化というのは、いつも出てくるもの。それならば、例えば、宇都宮のように「農業王国うつのみや」などと打ち出せば、それに向かって色々なものが付随して出来上がっていくという形になる。結局、今はトップの方向性が出ていないと思います。

横須賀会長：ありがとうございます。ご指摘があった最後の部分は、審議委員さんには別の機会がありますのでそこで議論していただくということでお願いします。他にございますか。

墳崎委員：若者代表としての意見ですが、重点プロジェクトの「働きやすく住みやすいまち」に「若い世代が稲敷市に住み続けたいとなるような定住支援～」と言う部分で、本音を話しますと若い世代の何をわかっているのか、と正直感じます。ニュースでもよく言われていますが、実際周りでも働く人が減少しており、若い世代の過酷な労働状況や、格差が拡大しているという現状があります。そういった中で、この「取組内容」を見ますと20～30代の声が反映されているのか疑問に思います。人口減少を食い止める、若い世代に定住してもらうためには、若い世代にとってメリットのある地域にならないといけない。言葉が悪いですが、若者を他の地域からぶんどっていくような覚悟がないと、現状維持すらままならないと思います。それと、取組方向を見ると具体案が多く提示されていますが、結構どれも大きく、実行していくとなると大変なことではないかと思うので、をとってもやるとなったら、大変なことではないか。どれかに絞って、重点的に集中していけば、目標達成の可能性も高くなるかと思います。

村塚委員：5年前の東日本大震災の時に、稲敷でも東地区を中心に、液状化現象がおきて被害としては大きいものでした。また、近い将来大地震の予測もでています。そういうものを踏まえて、将来に向け、地域消防力の維持・向上も考えて、こういう事が起きて、稲敷市ではこのような被害になったのでこういう予防をしていくという稲敷市独自の市政を内容に示して頂ければと思います。やはり5年経って、さらにだんだん年が経ってきますと、市民の意識が薄れてきますので、市民が防災に関心をもてる方向性にしてほしい。被害にあった方ばかりだけではなく、いつかはこういう被害があるかもしれないと市民や市外の人にもっと関心をもってもらえるようなもの。地域に特化して過去にあったことなどを一度洗い直し、それに対する備えというものをうたってほしいなと思います。

田村委員：13年計画ということで考えますと、現在、子どもがいますが13年後には何歳にな

っているのだろう、就職の時にどこで働くのだろうと考えてしまいました。稲敷市で働く選択ができるのか、市外の方に勤めなければいけないという選択になるのか、その辺がどうなのかと感じました。子育てに力を入れて、子どもたちを成長させていくのはとても大切なことだと思いますが、そうして成長していった子どもたちを市でどうやって働いてもらうか、定住させるか（守っていくか）という面でも計画を進めていただきたいと思います。

若松委員：今回稲敷市の基本構想の将来像「みんなが住みたい素敵なまち」ということを継承してやっているのですけども、計画を見ても、果たして稲敷に住みたくなるのかな、と疑問です。稲敷市に人を呼ぶ、注目を集めるためには、やはり一つモデルケースのようなものを作って頂けないかと思います。例えば、総務省のデータを見ますと、非常に人口知能が発達しており、ICT、IoTなどのコンピュータ通信による生活改善が現実のものとなっています。稲敷市でも問題となっている地域包括ケアなど、コンピュータ通信を活用して取り組んでいく、というようなものがあると良いと思います。そのような思いで国との連携を深めながらモデル都市に立候補するなど進めて行ってほしい。稲敷市ではこのような取組で人口流失を抑え住み続けたいまちにしていきたいよ、というように示していければと思います。他の全体的な項目も含めまして、コンピュータを使ったアイデアがもう少しあると良いのではないかな。

高木委員：総合計画に書いてあることで、もう少し深めてもらいたい内容についてあげさせていただきます。資料2の「基本計画(案)」9ページ、教育に関することなのですが、その中で「⑤時代の変化や教育的ニーズに対応した教育の推進」とありますが、初めの黒ポチに「キャリア教育の推進を図ります。」と書かれています。その上で、12ページの関連事業のところにはキャリア教育をどのように進めていくか具体的に示されていないので、今後どのように進めていくかという部分をお伺いできればと思います。今回、何故このように申し上げたかと言いますと、やはり子どもたちというのはいずれ社会に出て生活、または就職することになるかと思っています。その点で、出来るだけ早い時期から視野を広げ職業を知ることが、子どもたちの自己実現という意味で非常に大切です。全国的な統計となりますが、今は雇用者の約40%が非正規で働いているのが現状です。出来るだけ早くからの教育が大切で、目標を決めて段階的に学習を進めていくべきだと思います。稲敷に住んでいて、義務教育が終わって高校に進学する際に、市外に出て発展している地域に行くと、色々な職業に触れる機会があって、驚くことがあると思います。この辺でも例えば、香取市などでは裁判所や税務署、国土交通省の出先機関などの高度な機関があり、商業も発達しています。さらに、そこでは色々な人が働いています。そうすると、そこに住む子どもたちは、そういうものが身近にあるだけで、知らず知らずのうちに学べて早い段階からこういう職業につきたいと気づくことができます。ただ、稲敷市に住んでいると、その機会が少ないので早い段階から気付けるかと言われたら必ずしもそうではありません。もし可能であれば、小中学校の段階から、出前講座などを積極的に進めてもらい、それをきっかけにいろいろな職業を知る機会を設けて行ってほし

いと思います。

横須賀会長：ありがとうございます。どのようなプログラムかはちょっとわかりませんが、私自身も以前大学生相手に、キャリア教育の授業をやりました。リスクマネージメントと政治学の授業で行いましたが、大学生に教えているのと、小中学生に教えている内容はきっと基本の部分は違うかと思いますが、ですが、ある部分で共通しているのは今の小学生が就職する時は、今の職業の60%程度近くが無くなっていると言われています。むしろ、5年後ぐらいには半分ぐらいになっているかもしれない。今働いている人は、5年後も同じ仕事をやってもらえない、もしくは転職しているかもしれない、そんな時代になる。ですので、今キャリア教育の内容としてはどういうことに自分が集中して向かっていくかというよりは、いかにクリエイティブな人材を作ってどんなことでも耐えられるように、という教え方をしようという方向性。キャリア教育が非常に難しくなっている時代ではあります。大学生に対してはごく近いところの話ですが、小中学生に対してはどう教えていくべきか悩んでしまいませんか。そういう意味では、今のご指摘と、前のA Iのご指摘はこの計画には書きづらいところではあります。少なくとも13年同じ時代は続かないということだけは、はっきりしているということですね。ですので、この部分をどう加えていくかというのは難しく、下手すると書けないのかもしれないが、このことを頭に入れて進めていって貰いたいと思います。教育の方では何か具体的な案はあるのでしょうか。

教育部長：キャリア教育は、経験を活かして現在や将来を見据えることなどを主眼として行われる教育というものです。現在学校では、社会科の授業で外に出て色々な施設の見学をしたり、中学校では色々な職場に行つて職業体験なども行っています。横須賀先生のお話にもありましたが、市の教育の方では社会を生き抜く力、ということに主眼を置いて進めております。現在、市の方で総合計画の策定が行われておりますが、教育委員会の方でも平行して、稲敷市の教育大綱、教育振興基本計画を策定しており、整合を図りながら進めております。ただいま高木委員さんから頂いたキャリア教育のご意見は教育委員会の方にも持ち帰りまして、どのように対応するか検討させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

田村委員：放課後児童クラブについて少し耳にしたのですが、他市では、英語を教えてくれるところもある。働いている親御さんにとって塾に連れていくのがなかなか難しい環境だったりする時に、このような取組があるととても助かると思います。また、つくば市では英語の授業の時は、英語しか話さないなどの授業方針で進めているようです。英語は会話の基本ですので、高校入学時での学力もだいぶ違っていたと聞きました。そういう、先進的な取組を稲敷市でも取り入れて頂けたらと思います。

篠原委員：ある程度具体的な話になってきました。重点プロジェクトに微に入り細に詰めることを提言するのはどうかという部分もあるかと思いますが、ある新聞記事をご紹介します。石川県の南部にある市です。2005年の大合併により発足した同市では具体的に18才までの医療費を無料化し、妊娠出産の医療助成など若者向けの施策を充実したら、10年あまりで6%人口が増加したそうです。大都市圏と比べて雇

用の面などで不利な地方では、他と同じことをしては埋没してしまう。特色を見出し、いかにアピールするかが重要、という内容が書かれた記事となります。重点プロジェクトの中では、保全や推進をするという立派な言葉がありますが、具体的に「何をどうする」「〇〇をします！」と言い切る部分が必要ではないかと思います。予算も関わりますので重点プロジェクトではそこまで踏み込んで書きたくない、というのがあるかもしれませんが、そこまで踏み込んでお願いしたいなと思います。あと、先ほど英語を教えるという具体的な意見がありました。稲敷の図書館は休日休みですよ。休日こそ図書館に行きたい。普通の土日は開館しているのですが、休日こそ、市民のニーズがあるのではないかと思います。その辺、感覚がずれていると思う。重点プロジェクトとは具体的に馴染まないかもしれませんが、お願いしたいと思います。

横須賀会長：ありがとうございます。大きい小さいは別にしても、いくつもの積み重ねでまちはできています。事務局の方はきっちり捉えて担当と調整していただきたいと思います。初めの挨拶で、風邪を引いて頭が痛くなってしまった話をしましたが、もう一つ頭が痛くなった原因がございまして、2015年の数字が具体的に発表されたので、国立社会保障・人口問題研究所に話を伺いに行きました。今後もしかしたら呼びすることもできるかもしれないという点も含めまして、そこで聞いてみると、いくらでも話しても良いが良い話は一つもできないと言われました。統計上で整理したものの話をすると、日本中どこへ行っても、社人研は歓迎されないそうです。ところが、今後人口が三分の一に減るといわれている青森県だけでは歓迎されたという。いったん大きく人口減少し、ある所までいくと、85才以上の高齢者の人口の伸び率は減ると試算が出ている。逆に、今人口減少していないところの、高齢者の伸び率が大きく増えると言われています。ダメージは受けるが、そのあとは悪くないとのお話でした。これから本当に大変なのは東京や東京近辺なのかもしれません。あと十数年後には死亡数の二分の一が85才以上となるそうです。そのぐらい全国的に高齢化がきている。85才で亡くなると長生きしたなと思いがちだが、85才は生きていて当たり前の年齢になってきており、そこから先まで生きて亡くなっていく。統計を見ていくとどう奪い合っても結果は同じだということです。一番の消滅都市と言われた群馬県はプラスになっている。お話頂いたところも、消滅都市となっているところだと思います。逆に大胆な施策が打てるというところが強い。また、色々と大胆な施策が打てるのは、どのぐらいの人口のところかと言うと、人口が多く大きいところは、数が多すぎて手の打ちようがない。稲敷市のように、生まれてくる子どもの数が200人くらいであれば色々大胆な対処が可能となる。1000人になると対応できない。逆にいうと、稲敷市の方が可能性はあります。そう思って施策を考えて頂ければきっと可能性が広がると思います。単位が大きくなると、やれることもやれない時代になってくる。みんな状況は同じです。極端な話をすると、茨城県内でも良いよとなっているところも、20年後ぐらいにはえらい目に合うかもしれない。逆に既に人口減少しているところは、そのための対処が早めにとれるということです。長話をして申し訳ございません。それでは、どうでしょうか。先ほど話

したシートを事務局の方で作成して配布していただきたいと思います。そこに皆さんのご意見を書いていただくようにして、次回予定される審議会までに内容を整理していくという形で。それか、今言っておきたいということがあれば、ご発言よろしくをお願いします。

篠原委員：具体性がないという部分の範疇と申しますとあれなのですが、重点プロジェクトの5ページの「未来に向けて」に圏央道江戸崎PAについて記載されているが、上の「取組方向」には入っていないのは何故でしょうか。

政策調整部長：PAの周辺の開発整備と言うことで、「未来に向けて」の項目に入れさせて頂いておりますが、特にPAが、立地的に道路に接続していないという問題があります。もし周辺も含めた開発をするのであれば、道路整備も含めて、それから用地を取得し、どのような機能を持たせていくかという構想としても非常に難しい計画を作らなければならないというのがあって、現時点で、すぐに進められるプロジェクトではありません。しかし、その構想の可能性は残しておきたいので、未来に向けてに位置付けさせて頂いています。

篠原委員：江戸崎PAの話は、圏央道が開通した折に、PAで江戸崎かぼちゃをテントなどで販売できないかという話が前に出たので聞きました。土地を接道して、大がかりな固定施設を整備したものでなくて、テントでもいいのではないのでしょうか。ましてやかぼちゃは時期的なもので、その時その時ではないと保存が効かない。上下線どちらかで、簡易テントを立ててまずやってみるなど、大きな道の駅ではなくても良いから、パイロット的に取り組んではどうかという話です。

政策調整部長：実は、イベントとしては年に何回かPAを活用しテントを張って販売をしています。販売をするには、許認可や食品衛生の問題などがあって難しく、常設で進めようとする場合は、やるなりの整備が必要になってきます。ただ、イベントとしては、年に何回かは行っている状況でありますので、引き続き活用できればと思います。

横須賀会長：ご意見ありがとうございます。それでは、一応議事の1~3を一度閉じさせて頂きたいと思います。今日まだご発言が足りない部分については、事務局から送られるペーパーで、ご意見を出していただくという形を取らせていただきます。それを次回までに事務局は整理を行うという方向でよろしく願いいたします。それでは、その他は何かございますか。

5. 閉会

事務局：今後のスケジュールについて、お話させていただきます。参考資料2をご覧くださいと思います。次回の審議会は12月の3週目、19日の週に第5回の審議会を予定しております。また、日程等が決まり次第、皆さまに開催のご通知をしたいと思っております。その後に、1月下旬から2月上旬にかけて、パブコメや市民説明会を行い、2月下旬に審議会を開きまして答申、3月議会へという流れになります。以上が今後のスケジュールとなります。よろしくお願いいたします。

横須賀会長：ありがとうございます。それでは、皆様お忙しいと思いますので早めに日程を決めてご通知申し上げる形でよろしくお願いいたします。私の立場での進行はこれで終わりにさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

政策調整部長：本日予定した議事につきましてはすべて終了いたしました。長時間大変お疲れ様でございました。ありがとうございました。

以上